

宇野構遺跡の調査

第10回



▲石垣（北側から）



▲宇野構遺跡（全景）

昨年1月～3月にかけて伊水小学校の校庭裏で、(公財)兵庫県まちづくり技術センターによって発掘調査がおこなわれました。この調査によって城郭に関連する石垣や瓦が出土し、戦国時代末から織豊時代の城郭の姿が明らかになりました。

伊水小学校は字「構(かまえ)」と呼ばれて、以前から中世山城である長水城址の居館(主は祐清)があったといわれ、かつては校庭の一部に土塁が残っていました。今回の調査地である校庭裏の小丘の頂上にも長水城の城主、宇野政頼の供養碑が建ち、以前は天守公園として整備されていたようです。

調査では小丘の南と西側を囲む大規模な石垣が発見され、石垣の背後から土師器(素焼き)の皿や備前焼などの生活用品、瓦などが出土しました。見つかった石垣は西辺で長さ35メートルに渡って残されました。残された部分の高さは1メートル前後でしたが、グリ石という石垣背面を補強する石材が斜面一帯に散乱していたことから、元々は3メートル前後の高さであったことが分かっています。

取材協力  
公益財団法人兵庫県まちづくり  
技術センター

ところで、この石垣ですが、グリ石や石垣石が長い控えをとること、横列に石を組む特徴から、織豊期城郭に用いられる城郭石垣であることが分かります。このことから石垣は宇野氏の滅亡後に築かれたもので、織豊期段階(秀吉の播磨制圧後)に、この場所に城郭が存在したことを示してくれました。つまり、これまで宇野氏滅亡後はすべての宇野氏関係の城郭が廃絶したと思われていましたが、宇野構遺跡だけは居館から城郭にその姿を一新して、しばらく残されていたのです。

一方、石垣の裏側から出土した土器や瓦の発見も貴重なものです。これらはすべて宇野氏が活躍していた時期のもので、伝承だった居館は、これらの遺物の発見によって、存在を証明することができました。

このように今回の調査は、石垣づくりの城郭と宇野氏居館の存在を明らかにしたこと、2点で、重要な成果をもたらすこととなりました。

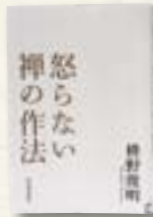
おいでよ 図書館へ



宍粟市立図書館 ☎ 62-4620

読書会

毎月第2土曜日  
午後1時30分～午後3時  
月1冊の課題読書を読み、参加者同士で感想を語り合います。いつでも参加、見学ができます！詳しくは図書館まで。



今月のオススメ

怒らない禅の作法

著者/柳野 俊明

禅の教えの中から、日常生活に取り入れられるものを紹介しています。執着を手放し、シンプルに生きる禅の心を持つことが、イライラ解消に繋がります。



社会の真実の見つけ方

著者/堤 未果

ジャーナリストの著者が、メディアが作り出す情報の恐ろしさを取材し、解説しています。情報の真実をいかにして読み解くかのヒントが載っています。

図書館カレンダー

□休館日 □館内整理日(休館)  
【開館時間】午前10時～午後5時30分

	日	月	火	水	木	金	土
1月	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。  
 昨年は「難読 宍粟市」の知名度アップ作戦など、さまざまな市の取り組みが新聞やテレビで紹介され、多くの皆さんに歴史ある宍粟市を知ってもらった良い一年であったと思います。  
 そんな中、2014年のNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」の撮影が始まり、市では「官兵衛 飛躍の地 宍粟」としてPRを展開してきました。ドラマのオープニングには波賀町の赤西渓谷も登場しています。皆さんもぜひご覧ください。そして、宍粟の地から大名へと大きな飛躍を果たした官兵衛のように、宍粟市も飛躍する一年となるように、今年も応援をよろしくお願いいたします。

